

令和 6 年度 地方独立行政法人東京都立病院機構 業務実績等報告の概要

令和6年度の業務実績 自己評価（総括）

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症との闘いが転換点を迎え、年間を通じて通常の診療体制となった最初の年度となった。断らない救急の徹底など患者の受入体制強化を推進する一方で、物価高騰や賃金の上昇など、病院経営を取り巻く環境が厳しさを増す中、収益確保と費用削減を両輪に、徹底した経営努力に取り組んできた。

（1）行政的医療の提供

周産期医療については、都内の出生数が減少する中でも、患者や地域のニーズに応じて質の高い医療を提供しており、無痛分娩の対象拡大や産後ケア事業の受入れ拡大を図っている。また、多摩北部医療センターにおいて、新たに産婦人科を標ぼうし、妊娠初期の疾患の受入れを開始したほか、多摩地域の産科施設の業務縮小等の環境変化にも積極的に対応している。

また、ロボット支援下手術や放射線治療、薬物療法等を組み合わせた集学的治療を推進し、質の高いがん医療を提供するとともに、小児から成人まで「断らない救急」を徹底し、機能に応じた救急医療を提供するなど、都立病院に求められる行政的医療に積極的に取り組んだ。

（2）総合診療の提供

都内の医療機関等との連携により、東京総合診療プロジェクト（T-GAP）を推進し、アライアンス施設の拡充に取り組んだほか、令和7年度採用に向け、松沢病院において精神科医療も理解した病院総合診療医を育成する新たな育成プログラムを作成するなど、機構内外の総合診療医の育成に貢献した。また、地域の医師のリスクリングを支援するため、東京都医師会との協働により、ワークショップを開催するとともに、リスクリングプログラムの検討を進めている。

（3）自律的運営に向けた取組

厳しい経営状況を踏まえ、機構を挙げて自律的運営に向けた取組を展開した。具体的には、人材等の医療資源を有効に活用するため、病床稼働率や入院患者数に応じた柔軟な病床運用を行ったほか、診療報酬改定に合わせた加算の取得や共同調達の推進など、徹底した収益確保及び費用削減に取り組んだ。その結果、令和6年度決算においては、前年度比で44億円の医業損益の改善を達成した。

また、機構発足以来、法人運営の基盤を構築するため、病院現場と法人本部が組織の垣根を越えて、「人材育成・活用」、「経営力強化」及び「DX・業務改革」等の5つのプロジェクトを展開し、職員ハンドブックの作成や各種マニュアルの整備など多くの具体的な取組につなげた。

令和6年度の業務実績 自己評価（個別項目）

事項	項目数	S	A	B	C	D
都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	18	2	4	12	0	0
行政的医療や高度・専門的医療等の安定的かつ継続的な提供	12	2	3	7	0	0
災害や公衆衛生上の緊急事態への優先した対応	1	0	0	1	0	0
地域医療の充実への貢献	2	0	0	2	0	0
安全で安心できる質の高い医療の提供	2	0	1	1	0	0
診療データの活用及び臨床研究・治験の推進	1	0	0	1	0	0
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	1	1	0	0	0	0
財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	1	0	0	1	0	0
その他業務運営に関する重要事項	1	0	0	1	0	0
合計	21	3	4	14	0	0

S
の評価項目

- ・ 周産期医療 ・ 総合診療の提供
- ・ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

A
の評価項目

- ・ がん医療 ・ 救急医療
- ・ 小児医療 ・ 患者中心の医療の推進

がん医療

評価項目 1

手術や放射線治療、薬物療法等を組み合わせた集学的治療を推進し、質の高いがん医療を提供

◆ 手術

- **がん手術件数** (目標) 7,088件 (実績) 7,115件 (達成度) **100.4%**

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
駒込病院	2,335件	2,454件	105.1%	2,312件
豊島病院	410件	344件	83.9%	340件
荏原病院	130件	120件	92.3%	140件
墨東病院	1,000件	1,088件	108.8%	1,021件
多摩総合医療センター	1,800件	1,849件	102.7%	1,746件
多摩北部医療センター	520件	470件	90.4%	428件
東部地域病院	467件	394件	84.4%	460件
多摩南部地域病院	426件	396件	93.0%	366件
計	7,088件	7,115件	100.4%	6,813件

● ロボット支援下手術件数

- (目標) 1,333件 (実績) 1,673件 (達成度) **125.5%**

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	52件	37件	71.2%	10件
駒込病院	392件	445件	113.5%	397件
豊島病院	105件	111件	105.7%	72件
墨東病院	200件	209件	104.5%	195件
多摩総合医療センター	300件	431件	143.7%	307件
多摩北部医療センター	120件	160件	133.3%	102件
東部地域病院	114件	179件	157.0%	80件
多摩南部地域病院	50件	101件	202.0%	23件
計	1,333件	1,673件	125.5%	1,186件

- ・従来よりも低侵襲性と整容性、合併症リスクの低減等の点で優れた機器を導入。これにより治療の幅が広がったことで、手術件数が増加 [駒込]
- ・手術枠の見直しやタスクシフトのほか、延長手術にも対応可能な体制の整備により、ロボット支援下手術は前年度比約1.4倍となる431件となった。 [多摩総]

◆ 精密検診 (がん検診センター)

- **精密検診受診者数** (目標) 28,690件 (実績) 15,437件 (達成度) 53.8%

- 東館完成に伴い令和7年2月にがん検診センターを閉所。精密検査や早期治療に機能を重点化し、多摩総合医療センターへ統合

◆ 放射線治療、薬物療法

- **IMRT・定位放射線治療件数**

- (目標) 24,400件 (実績) 25,104件 (達成度) **102.9%**

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
駒込病院	13,000件	14,184件	109.1%	14,049件
墨東病院	4,000件	3,712件	92.8%	4,024件
多摩総合医療センター	4,800件	5,082件	105.9%	3,888件
多摩北部医療センター	2,600件	2,126件	81.8%	2,969件
計	24,400件	25,104件	102.9%	24,930件

- ・リニアックを更新し、病変部に対して最適な放射線強度を自動で解析・照射するシステムを導入。これにより、多発性の転移性脳腫瘍に対して高精度で短時間かつ正常脳への線量を低減した照射が可能となった。 [多摩北]
- **外来化学療法件数** (目標) 37,748件 (実績) 41,741件 (達成度) **110.6%**

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
駒込病院	14,500件	13,348件	92.1%	13,843件
豊島病院	1,400件	2,000件	142.9%	1,410件
荏原病院	760件	751件	98.8%	765件
墨東病院	7,400件	8,885件	120.1%	8,494件
多摩総合医療センター	8,000件	10,489件	131.1%	8,955件
多摩北部医療センター	3,000件	3,311件	110.4%	3,049件
東部地域病院	1,488件	1,542件	103.6%	1,396件
多摩南部地域病院	1,200件	1,415件	117.9%	1,063件
計	37,748件	41,741件	110.6%	38,975件

● CAR-T療法 [駒込、多摩総・小児総]

- ・CAR-T療法を46例実施 (参考: 令和5年度 44例) [駒込]
- ・多摩総・小児総が合同でキムリア提供可能施設として認定され、1症例目を実施

◆ がん研究への貢献

- 内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 研究開発事業テーマにおける課題「統合型ヘルスケアシステムの構築」に向け、公益財団法人がん研究会有明病院が進める「B-I がん診療についての統合的臨床データベースの社会的実装」に、共同研究開発機関として参画 [駒込]

精神疾患医療

評価項目 2

地域の医療機関や訪問看護ステーション等との連携を図りながら、症状に応じた質の高い精神疾患医療を提供

◆ 精神科救急

- 東京都精神科夜間休日救急診療事業による搬送患者数
(目標) 1,158人 (実績) 1,508人 (達成度) 130.2%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
豊島病院	222人	316人	142.3%	174人
墨東病院	209人	339人	162.2%	185人
多摩総合医療センター	227人	390人	171.8%	216人
松沢病院	500人	463人	92.6%	234人
計	1,158人	1,508人	130.2%	809人

- 精神科身体合併症患者数(新入院)
(目標) 622人 (実績) 671人 (達成度) 107.9%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	15人	20人	133.3%	13人
豊島病院	20人	17人	85.0%	22人
荏原病院	4人	2人	50.0%	2人
墨東病院	10人	5人	50.0%	7人
多摩総合医療センター	80人	110人	137.5%	85人
松沢病院	493人	517人	104.9%	520人
計	622人	671人	107.9%	649人

◆ 依存症への対応 [松沢]

- 東京都依存症専門医療機関、依存症治療拠点機関(アルコール健康障害)
 - ・ 専門外来や入院(アルコール等依存症治療病棟)、専門デイケアにより、急性期から回復期、社会復帰まで、切れ目なく支援できる体制で治療を提供
依存症患者入院数 231人(参考:令和5年度 238人)
 - ・ アルコール依存症に関する講演会(申込者126名)や研修会(2回、56名参加)のほか、依存症に関する家族教室(10回、92名参加)を開催
 - ・ 回復支援施設と連携し、依存症デイケアおよび依存症病棟におけるアルコール依存症リハビリテーションプログラム(ARP)を提供(計37回、対象患者延べ912人)

◆ 認知症への対応

- 東京都認知症疾患医療センター(地域拠点型)[荏原・松沢]
 - ・ 各地域における認知症患者とその家族を支援する体制を構築するために、専門医療の相談や身体合併症医療の提供、行動・心理症状への対応のほか、地域連携の推進や専門医療、地域連携を支える人材の育成に取り組んだ。
- アルツハイマー病による軽度認知障害、軽度アルツハイマー病の方を対象に、レカネマブ等認知症治療薬を用いた治療を提供[広尾、大塚、駒込、荏原、墨東、多摩北、神経]
 - レカネマブ及びドナネマブ使用実績 22例
- 「物忘れ外来」を開設(令和7年3月)[豊島]
 - ※広尾、荏原、多摩北、神経、松沢の5病院にも設置

◆ 児童・思春期の精神疾患への対応

- 限局性学習症の診断と療育指導を実施[大塚]
 - 児童精神科延外来患者数 5,700人(参考:令和5年度 5,388人)
- 他の医療機関では対応が困難な疾患も含め、重症かつ多様な児童思春期精神疾患の患者を受け入れ、外来治療及び入院治療を行ったほか、からだ病棟に入院している患者に対しても精神科リエゾン医療を提供[小児総]
 - 児童・思春期精神科新規入院患者数 417名(参考:令和5年度 424名)
- 状況に応じて初診枠を増やすことで初診待機期間を短縮し、早期介入・早期支援に取り組んだ[小児総]
- 思春期・青年期専門外来を週3回実施[松沢]
 - 専門外来延患者数 1,870人(参考:令和5年度実績 2,056人)

◆ その他精神疾患医療の向上

- 東京都摂食障害支援拠点病院に指定(令和6年7月)[松沢]
 - ・ 東京都摂食障害相談窓口を設置し、摂食障害に関する相談を通じて患者の早期発見と受診につなげた。
 - ・ 令和7年3月に摂食障害専用サイトを開設し、摂食障害に関する情報発信を強化

評価項目 3

救急医療

各病院において断り症例の分析や院内における応需率の共有など「断らない救急」を徹底し、救急隊との連携や受入体制の強化を図りながら、機能に応じた救急医療を提供

◆ 救急受入れ

● 救急入院患者数

(目標) 41,191人 (実績) 42,099人 (達成度) 102.2%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	4,104人	3,562人	86.8%	3,592人
大久保病院	2,265人	2,331人	102.9%	2,200人
大塚病院	3,349人	2,964人	88.5%	2,578人
駒込病院	1,700人	1,793人	105.5%	1,659人
豊島病院	3,799人	2,984人	78.5%	3,297人
荏原病院	2,600人	2,885人	111.0%	2,621人
墨東病院	8,919人	10,663人	119.6%	9,335人
多摩総合医療センター	6,400人	6,587人	102.9%	7,916人
多摩北部医療センター	2,860人	3,094人	108.2%	2,796人
東部地域病院	2,441人	2,543人	104.2%	2,314人
多摩南部地域病院	2,754人	2,693人	97.8%	2,475人
計	41,191人	42,099人	102.2%	40,783人

● 救急車搬送患者数

(目標) 52,007人 (実績) 54,681人 (達成度) 105.1%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	5,628人	6,094人	108.3%	5,570人
大久保病院	4,061人	3,591人	88.4%	3,834人
大塚病院	4,883人	5,146人	105.4%	4,920人
駒込病院	2,000人	2,105人	105.3%	1,895人
豊島病院	5,500人	4,946人	89.9%	5,534人
荏原病院	4,500人	5,004人	111.2%	4,481人
墨東病院	7,200人	9,525人	132.3%	8,050人
多摩総合医療センター	7,635人	8,300人	108.7%	8,072人
多摩北部医療センター	4,000人	3,722人	93.1%	4,259人
東部地域病院	3,500人	3,263人	93.2%	3,191人
多摩南部地域病院	3,100人	2,985人	96.3%	3,051人
計	52,007人	54,681人	105.1%	52,857人

◆ 断らない救急の徹底

● 救急車・ホットライン応需率

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	70.0%	75.5%	107.9%	64.3%
大久保病院	61.0%	71.3%	116.9%	60.0%
大塚病院	70.0%	74.6%	106.6%	63.8%
駒込病院	45.0%	52.8%	117.3%	40.8%
豊島病院	86.0%	70.5%	82.0%	71.4%
荏原病院	86.6%	73.9%	85.3%	71.0%
墨東病院	58.0%	60.2%	103.8%	50.4%
多摩総合医療センター	65.0%	60.0%	92.3%	59.0%
多摩北部医療センター	72.8%	78.9%	108.4%	72.7%
東部地域病院	79.0%	76.9%	97.3%	79.6%
多摩南部地域病院	55.0%	55.4%	100.7%	51.1%
小児総合医療センター	98.0%	97.0%	99.0%	97.9%

- 消防署を積極的に訪問して連携を強化するとともに、応需率の見える化や断り症例の分析、院長メッセージの発信等を通じて、断らない救急を徹底
- 三次救急を担う医療機関と協定を締結し、下り搬送の受入れを強化 [大久保]
- 救急業務に習熟したER-Aideの活用により救急受入れの円滑化を図り、応需率を向上 [多摩北、多摩南]
- 多職種で構成したベッドコントロールセンターを新たに設置し、効率的かつ効果的な病床運営を行い、受入体制を強化 [多摩南]

◆ 急性心血管疾患への対応

● 急性大動脈スーパーネットワーク受入実績

病院名	令和6年度実績	令和5年度実績
広尾病院	35件	31件
墨東病院	69件	73件
多摩総合医療センター	64件	48件
計	168件	152件

災害医療

評価項目 4

来るべき大規模災害に備え、訓練・研修等により都立病院の体制を強化するとともに、関係機関との連携を通じて地域の災害対応力向上に貢献

◆ 訓練・研修の実施

● 受援対応訓練（令和6年度新規）

- 発災時の初動対応のため、職員参集基準に基づく参集及び応援職員受入れ訓練を全都立病院一斉に実施し、333名が参加

● 災害医療実践研修

- 専門領域を問わず「災害時の医療従事者」としての発想や対応力を身に付けるため、災害時の限られた医療資源を想定した様々なケーススタディ（気道確保、エコー体験、小児患者搬送方法の訓練等）による実技を中心とした研修を実施
令和6年度から医師以外にも対象を拡大し、各病院から33名が参加

● 医療救護班の体制強化

- 医療救護班のリーダーに求められる役割を理解し、円滑な救護班運営を図ることを目的として、医療救護班リーダー養成研修を実施。新たに17名のリーダーを養成（令和6年度末累計養成人数41名）
- 災害医療従事者としての更なる意識醸成を図り、機構の災害医療の核となる職員を養成することを目的として、「医療救護班実地研修」を新たに実施。東日本大震災の関連施設・震災遺構等を巡るフィールドワークや、東日本大震災当時に現場の指揮を執った医師との対話を通じ、医療救護班派遣に際しての心構えと留意すべき点を学ぶとともに、複数病院による混成医療救護班編成を想定したコミュニケーションの取り方等の実地研修を行った。（各病院から26名の職員が参加）
- 令和6年1月の能登半島地震における対応を反映するなど、災害時における医療救護班の円滑な編成・派遣のための基本的な事項を定めた「都立病院機構医療救護班活動ガイドライン」を新たに策定

● 「東京医療減災Labo」の取組

- 機構職員に加え、地域医療機関や区市町村等向けの研修や訓練を通じて地域の災害医療体制や災害対応力の強化に貢献することを目的とした「東京医療減災Labo」の取組について検討・準備を進めた。
- 都福祉局の要請に基づき、「災害時精神科医療図上訓練」を実施



◆ 危機管理対策委員会（CMC）

- 令和6年3月に設置した危機管理対策委員会（CMC）の本格運用を開始
- 機構のグループウェア上にCMCを常設し、必要時には随時Web会議を招集するなど、危機事案発生時には迅速に対応
- 医療機能及び医療提供を継続するために機構全体で対応が必要な危機事案に対して、CMCを中心に都立病院機構として統一的に対応するため、情報共有基準を策定

◆ 外部関係機関との連携

● 緊急医療救護所開設に向けた検討 [大久保]

- 新宿区等と連携し、災害時に傷病者が多数発生し医療機関が機能停止に陥った場合に開設される緊急医療救護所の設置に向けた検討を実施

● 模擬給油訓練 [多摩総]

- 災害時石油供給連携計画に基づき、石油連盟主催の模擬給油訓練に参加

● 大規模地震時医療活動訓練

- 国・自治体等の関係機関が連携し、相互協力の円滑化を図るため、政府主催の大規模地震時医療活動訓練に参加。首都直下地震を想定した東京都保健医療福祉調整本部及びDMAT調整本部訓練を通して、関係機関との連携について確認
⇒ 令和7年度より都が設置する「保健医療福祉調整本部」へ参画。今後は、都立14病院が一体となり災害時に拠点となる病院群として機能するとともに、都全域の災害対応力の強化に貢献

● 航空機事故消火救難総合訓練 [広尾]

- 東京国際空港からの要請に基づき、令和6年1月発生航空機衝突事故を踏まえた大規模訓練に、都立病院として初めてドクターカーで参加（包括連携協定に基づき、東京都立大学健康福祉学部看護学科教授が訓練アドバイザーとして参加）

● 災害拠点精神科（連携）病院訓練（都福祉局委託事業） [松沢・本部]

- 都福祉局からの委託に基づき、災害拠点精神科（連携）病院及びDPAT等を対象とした災害医療訓練を実施。都内精神科病院の職員等64名が参加し、実践的な訓練を通じ、災害対応力強化を図った。

島しょ医療基幹病院である広尾病院を中心に、島しょ患者へ適切な医療を提供するとともに、5Gによる遠隔診療支援や医療人材への技術支援を着実に実施

◆ 島しょ患者の受入れ

- 島しょ新入院患者数 (目標) 1,310人 (実績) 1,020人 (達成度) 77.9%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	1,310人	1,020人	77.9%	1,127人

- 屋上ヘリポートを24時間運用し、島しょ地域の救急患者を受入れ [広尾]
令和6年度ヘリポート使用実績 45回 (参考: 令和5年度 33回)
- 島しょの患者・家族等のため、敷地内に「患者家族宿泊施設」を設置し、運営 [広尾] 利用実績 379人 (参考: 令和5年度 353人)
[多摩総] 利用実績 11人 (参考: 令和5年度 15人)

◆ 診療支援 [広尾]

- 画像伝送システムを活用し、島しょ医療機関と単純X線やCT等の医療情報を共有するとともに、読影診断や緊急搬送要否判断、専門医による助言等の支援を実施
令和6年度読影件数 1,026件 (参考: 令和5年度 1,118件)
- 5G通信を活用し、町立八丈病院から送信された超音波画像を広尾病院の医師がリアルタイムに確認し、助言
令和6年度支援件数 13件 (参考: 令和5年度 10件)

◆ その他島しょ医療への貢献

- 日本看護協会からの依頼に基づき、広尾病院の集中ケア認定看護師が、島しょの看護師向けに講義を実施 (八丈島・母島等から17名が参加) [広尾]
テーマ: 「慢性心不全看護とクリティカルケア看護」
- 島しょ医療機関のニーズを踏まえ、医師等を派遣 [広尾]
医師: 延べ83名
看護師: 4名 (三宅島、各2週間)、1名 (八丈島、12日間)
助産師: 2名 (八丈島、各1週間)
- 退院後 (帰島後) の療養生活を円滑に送ることができるよう、島しょ医療機関等との退院支援カンファレンスを実施 [広尾]
令和6年度カンファレンス実施件数 17件 (参考: 令和5年度 7件)

周産期医療

評価項目 6

都内の出生数が減少傾向にある中でも、地域ニーズや患者ニーズに応じた質の高い周産期医療を提供

◆ 総合周産期母子医療センター

● 母体搬送受入件数

(目標) 588件 (実績) 617件 (達成度) 104.9%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
大塚病院	180件	124件	68.9%	158件
墨東病院	200件	283件	141.5%	218件
多摩総合医療センター	208件	210件	101.0%	173件
小児総合医療センター				
計	588件	617件	104.9%	549件

● 超低出生体重児取扱件数

(目標) 107件 (実績) 93件 (達成度) 86.9%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
大塚病院	21件	18件	85.7%	11件
墨東病院	36件	33件	91.7%	23件
多摩総合医療センター	50件	42件	84.0%	38件
小児総合医療センター				
計	107件	93件	86.9%	72件

◆ ハイリスク妊産婦への対応

● 未受診妊婦、精神疾患合併症妊婦の受入れ

病院名	未受診妊婦		精神疾患合併症妊婦	
	令和6年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和5年度実績
広尾病院	1件	0件	16件	20件
大塚病院	36件	45件	66件	57件
豊島病院	10件	5件	111件	111件
荏原病院	0件	0件	18件	21件
墨東病院	9件	6件	93件	75件
多摩総合医療センター	11件	15件	172件	210件
合計	67件	71件	476件	494件

◆ 特定不妊治療の開始に向けた準備 [大塚]

- 令和7年度中の不妊治療事業開始に向けて、不妊治療外来の諸室に関する設計を実施するとともに、整備する医療機器の検討等を実施。引き続き、都と連携しながら、工事及び医療機器等の整備や運用フローの検討を行うなど、運用開始に向けた準備を着実に進めていく。

◆ 無痛分娩への対応

- ニーズを踏まえ、対象を拡大するなど、無痛分娩を推進

病院名	令和6年度実績		令和5年度実績	
	分娩件数	無痛分娩件数	分娩件数	無痛分娩件数
大塚病院	951件	44件	888件	7件
豊島病院	598件	262件	441件	161件
荏原病院	380件	70件	430件	48件
墨東病院	862件	20件	787件	14件
多摩総合医療センター	1,153件	118件	1,207件	92件
合計	4,136件	514件	3,992件	322件

◆ 地域への貢献

- 各自治体から要請を踏まえ、産後ケア事業を受託。産後のお母さんのケアと授乳や育児の相談支援を行うことで、安心して子育てできるようサポート

病院名	令和6年度実績	令和5年度実績	実施自治体
大塚病院	87件	-	文京、豊島、板橋
豊島病院	89件	18件	文京、豊島、板橋、練馬
荏原病院	26件	6件	大田
墨東病院	89件	-	墨田、江東、江戸川
合計	291件	24件	※赤字は令和6年度からの新規

- 地域ニーズを受け、令和6年5月から新たに産婦人科を標榜し、妊娠初期（妊娠12週未満）の妊婦関連疾患の診療・入院に対応 [多摩北]
- 地域の産科施設の減少等を踏まえ、地域の患者受入れや相談への対応、新生児救急車による医師の出動・搬送など、積極的に対応 [小児総]
新生児救急車出動回数（除く転院）308回（参考：令和5年度241回）

小児がん医療や小児難病医療、小児救急医療など質の高い医療を提供するとともに、AYA世代や医療的ケア児への支援などの医療課題に取り組んだ

◆ 小児のがんや希少疾患、難治性疾患への対応

- 小児がん拠点病院として、他院では治療困難な小児がんの診断・治療や、HLA不適合移植、難治性脳腫瘍に対するNovoTTF-100Aの安全性確認試験（先進医療B）など、高度な専門医療を提供【小児総】
- 二分脊椎センターにおいて、二分脊椎に対する高度な診療を提供するとともに、患者が成人後もよりよい生活を送ることができるよう、関係各科の医師や認定看護師等が参加する排泄ケアカンファレンスを定期開催する等、多職種によるトータルケアを実施【小児総】
二分脊椎手術件数 90件（参考：令和5年度 88件）
排泄ケアカンファレンス実施件数 32回（参考：令和5年度 36回）
- 脳神経系の小児慢性特定疾病や希少疾患・難治性疾患に対する先進的かつ専門性の高い小児医療を提供【神経】 ※（）内は令和5年度の実績
 - ・ 難治性てんかん患者に対する長時間ビデオ脳波同時記録施行数 358件（355件）
 - ・ 難治性不随意運動症入院総数 34件（31件）
 - ・ 神経変性疾患・代謝異常疾患の入院総数 179件（171件）
 - ・ 専門医による遺伝カウンセリングの施行数 126件（86件）

◆ 小児救急【小児総】

- 救急患者数（目標）4,800人（実績）4,221人（達成度）87.9%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
小児総合医療センター	4,800人	4,221人	87.9%	4,640人

- ・ 都外からの救急搬送も受け入れており、ドクタージェットによる全国からの広域搬送に対応
- ・ 多摩北部医療センター及び多摩南部地域病院へ小児科医を派遣し、多摩地域の小児救急体制に広く貢献

● PICU新入室患者数（院内転棟除く）

（目標）800人（実績）777人（達成度）97.1%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
小児総合医療センター	800人	777人	97.1%	776人

● 救急車・ホットライン応需率（再掲；P5「救急医療」）

（目標）98.0%（実績）97.0%（達成度）99.0%

◆ AYA世代への支援【小児総】

- 都教育庁と連携し、長期入院する都立高校生がオンライン授業により単位認定を受けることができるよう支援。令和6年度は1名が本制度を活用
- 患者が寛げる場所として「AYAルーム」を設置し、患者同士の交流や余暇活動、仕事や勉強を行う場として活用
令和6年度利用満足度 約93%
- AYA世代がん相談情報センター（都保健医療局受託事業）において、患者や家族、医療機関等からの相談に対応
令和6年度相談件数 6件（参考：令和5年度 6件）

◆ 医療的ケア児への対応

- 受入れ件数（レスパイト入院含む）

病院名	令和6年度実績	令和5年度実績
広尾病院	12件	21件
豊島病院	107件	88件
墨東病院	48件	12件
多摩北部医療センター	84件	89件
東部地域病院	6件	2件
小児総合医療センター	180件	86件
計	437件	298件

- 東京都医療的ケア児支援センター（都福祉局受託事業）医療的ケア児や家族が、児の心身の状況に応じた適切な支援を受けることができるよう、相談に対応【大塚、小児総】
相談受付件数【大塚】125件（参考：令和5年度123件）
【小児総】407件（参考：令和5年度454件）

◆ ファシリティドッグの拡充に向けた取組【小児総】

- 全国初のファシリティドッグ2チーム目導入に向け、クラウドファンディングに職員一丸となって取り組み、目標金額を達成
- こころ病棟へのファシリティドッグ導入に向けた準備を進めるとともに、情報発信を継続し、ファシリティドッグの育成や認知度向上にも寄与していく。

コロナ5類移行後も陽性患者の受入れを継続するとともに、危機管理体制の充実や訓練などにより、新興・再興感染症への備えを強化

◆感染症流行への備え

●医療措置協定の締結

- ・感染症法に基づき、感染症発生・まん延時に、迅速かつ的確に医療提供体制を確保するため、全14病院が東京都と医療措置協定を締結

第一種協定指定医療機関 全14病院

第二種協定指定医療機関 神経、小児、松沢を除く11病院

●「新興感染症発生時における危機管理の手引き」の作成

- ・新興感染症等の発生時に、都民に対して医療サービスの提供を継続するとともに、地域の医療ニーズに迅速に対応するため、「新興感染症発生時における危機管理の手引き」について検討。コロナ禍の経験を踏まえ、都立病院等感染管理担当者会で素案を作成し、これを基に、危機管理感染症委員会及び感染管理委員会において策定準備を進めた。（令和7年4月策定）

●感染症対応に長けた人材の育成

- ・感染対応力を向上させる育成プログラムを、ベーシック・アドバンス・エキスパートの3階層で実施
- ・アドバンスコースを駒込病院と豊島病院で実施（受講者43名）
- ・エキスパートコースを令和6年度からの2年計画で実施（受講者11名）

◆各病院の取組

- コロナ5類移行後も、各病院においてコロナ患者を継続的に受入れ
令和6年度延べ入院患者数 26,680人
- 都主催のエボラ出血熱を想定した一類感染症対応訓練のほか、東京検疫所と合同で新型インフルエンザ患者受入訓練を実施 [駒込]
- 墨田区保健所と合同で一類感染症患者受入訓練を実施したほか、墨田区保健所と東京港湾検疫所のそれぞれと新型インフルエンザ等対応訓練を実施 [墨東]
- 抗菌薬適正使用支援チームの取組により、高水準のアクセス抗菌薬使用比率を達成し、J-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）では年間を通じて抗菌薬適正使用比率が全国約2000施設の上位1%以内に入った。特に令和6年1月～6月の6か月間は全国1,765病院の中で「最も適切に抗菌薬を使っている病院」となった。 [小児総]

早期の診断・治療から地域での療養に至るまで、一貫した質の高い難病医療を着実に提供するとともに、地域の在宅療養関連機関等を支援

◆高度で専門的な難病医療の提供 [神経]

- 難病医療の拠点病院として、診断から外来・入院、在宅療養に至るまで、高度で専門的な難病医療をシームレスに提供

ALS/MNDセンター

延外来患者数 令和6年度実績 223名（参考：令和5年度193名）

ALSセンター介入率

（目標）34.0% （実績）37.9% （達成度）111.5%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
神経病院	34.0%	37.9%	111.5%	34.2%

パーキンソン病・運動障害疾患センター（DBS外来）

延べ外来患者数 令和6年度実績 317名（参考：令和5年度270名）

てんかん総合治療センター

てんかん手術件数 （目標）40件 （実績）35件 （達成度）87.5%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
神経病院	40件	35件	87.5%	48件

入院診療

新入院患者数 4,271人（令和5年度3,891人、380人増）

延べ入院患者数 75,950人（参考：令和5年度68,286人、7,664人増）

緊急入院患者数 594人（参考：令和5年度513人、81人増）

- 同じ敷地内の多摩総合及び小児総合との連携により、多摩メディカル・キャンパスとして全指定難病の約9割に対応。令和6年3月31日現在の認定患者数ベースでは、ほぼ全ての指定難病に対応可能

◆地域への貢献

- 東京都在宅難病患者一時入院事業 [大塚、駒込、墨東、神経]
一時入院受入実績 87人（参考：令和5年度90人）
- 地域の医療機関のニーズを踏まえ、研修等を開催するとともに、専門人材による難病患者の在宅療養に関するケア技術向上支援等を実施 [神経]
 - ・認定看護師による出張講座 25回（参考：令和5年度9回）
 - ・訪問看護ステーション研修 9回（参考：令和5年度8回）
 - ・訪問看護師との難病看護事例検討会 2回（参考：令和5年度2回）

各診療科の連携のもと、総合診療基盤を活かした障害者の合併症医療や障害者歯科医療等、障害者医療を着実に提供

◆ 総合診療基盤を活かした障害者医療の提供

- 「障害者（児）医療」を重点医療のひとつに掲げ、合併症医療及び歯科医療を提供 [大塚]
- 各病院において、地域の医療機関では対応が困難なスペシャルニーズのある方を対象に障害者歯科医療を提供 [広尾、大塚、豊島、荏原、墨東、多摩総、多摩北、小児総、松沢]
- 精神科身体合併症患者数（新入院）（再掲）
（目標）622件（実績）671件（達成度）**107.9%**

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	15人	20人	133.3%	13人
豊島病院	20人	17人	85.0%	22人
荏原病院	4人	2人	50.0%	2人
墨東病院	10人	5人	50.0%	7人
多摩総合医療センター	80人	110人	137.5%	85人
松沢病院	493人	517人	104.9%	520人
計	622人	671人	107.9%	649人

◆ 地域への貢献

- 地域の医療機関や訪問看護ステーション等からの依頼に基づき、専門・認定看護師等が出張講座を実施 [広尾、大塚、駒込、豊島、荏原、墨東、多摩総、多摩南、小児総、松沢]
- 東京都訪問看護教育ステーション事業に参画し、看護技術トレーニング研修・実務見学研修を受入れ [駒込]

◆ 障害児（者）に対するレスパイト対応

- 東京都在宅難病患者一時入院事業 [大塚、駒込、墨東、神経]（再掲）
一時入院受入実績 87人（参考：令和5年度 90人）
- 重症心身障害児（者）短期入所事業 [大塚]
短期入所受入実績 22人（参考：令和5年度 15人）
- レスパイトの入院枠を増やすとともに、対象患者を拡大することで、受入数を大幅に増加 [小児総]
令和6年度実績 180人（参考：令和5年度 86人）

総合診療の提供

都内の医療機関や医師会等と連携し、東京総合診療プロジェクト（T-GAP）を推進

◆ 東京都全体で総合診療医を育成

● 東京総合診療アライアンス

- ・ 都内で総合診療研修プログラムを提供する病院・大学との連携関係（総合診療アライアンス）を拡充（令和7年3月末時点26施設）
- ・ アライアンス施設への講師派遣（回診指導、広報活動支援）
- ・ 国内外の講師を招へいし、良質で実践的なレクチャーを開催（年間102回、1,829名参加）
- ・ 令和7年度4月専攻医採用数：都内で35名採用
- ・ 動画プラットフォームを整備し、過去に実施したレクチャーを公開

● 広尾病院（モデル病院）における事業実施

- ・ モデル病院としてプロジェクトを統括
- 教育：専攻医2名採用、学生の実習生2名・初期研修医8名（院内5名、他施設3名）受入れ
- 診療：病院総合診療科で、外来、入院、2次救急患者を受入れ
 専門診療科（整形外科等）との協診（コマネジメント）を実施（常時5人程度）
- 実績：入院件数：年間565件、外来取扱人数：月平均264人、紹介患者数：216人

● 都立病院の取組

- ・ 「都立病院機構総合診療専門研修プログラム」に基づき、合計19名の指導医が総合診療医を育成〔広尾、駒込、多摩総、多摩北、松沢（R6年10月新規承認）〕
- ・ 都立指導医ミーティングを2回開催し、連携を強化
- ・ 令和7年度4月都立病院専攻医採用数：4名採用〔広尾1名、多摩総3名〕
 （参考：令和6年度採用数 7名〔広尾2名、多摩総3名、多摩北2名〕）

◆ 地域の医師のリスキングを支援

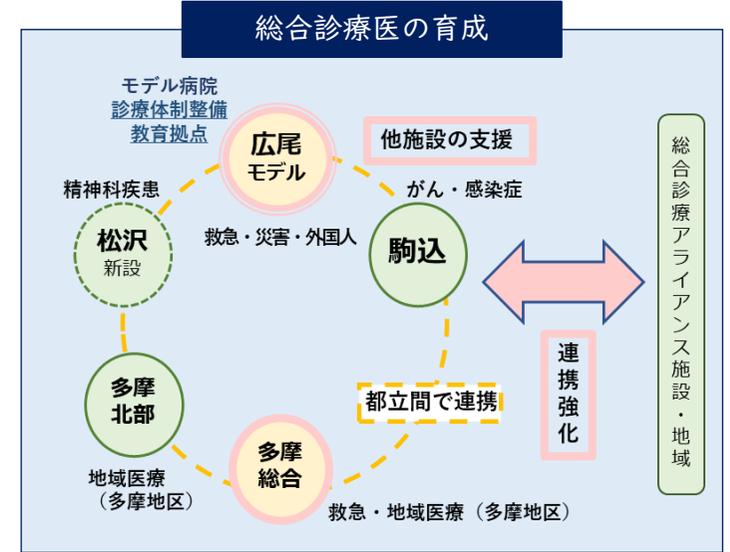
- 都医師会と地域医療人材育成支援事業ワークショップを共催（アライアンス施設の医師ら24名が参加）
- 都医師会と連携し、リスキングプログラム実施のあり方を検討・調整
- 今後、東京の医療に必要なコンテンツの充実や学びのニーズに応えるフィールドを用意するなど、ニーズに応じてカスタマイズ可能なプログラムを作成

◆ 医学生や研修医、看護師等に総合診療の学びを提供

- 薬剤師、看護職向け勉強会を開催（計5回）〔広尾〕

◆ 患者や地域とともに医療者を育成

- 海外からアラン・ケレハー氏を招へいし、講演会を開催（一般市民ら148人参加）
- 広尾病院を中心に地域活動実施（9回、252名参加）



■ 令和6年度レクチャー等開催実績 *大学病院、診療所、薬局等の医療関係者、医学生など
 開催回数：102回、参加者数：延1,829人（機構内924人、機構外*905人）

	主な内容	実績
レクチャー	プライマリ・ケア思考による地域実践 診断エラー研究の最前線と実装 など	95回/延1,607人 うち機構外739人
ワークショップ	総合診療医のためのTEAM STEPPS THE 整形内科～エコーを使いこなすワーク ショップ など	6回/延131人 うち機構外87人
シンポジウム	世界における診断の安全性のこれから-診療所から 病院、全ての職種で考えること-	1回/延91人 うち機構外79人

評価項目12 その他の行政的医療、高度・専門的医療等の提供

自己評価
B

各病院の機能に応じて、一般医療機関では対応が難しい行政的医療をはじめとする質の高い医療を着実に提供

◆高度・専門的医療の提供

- 東京都アレルギー疾患医療拠点病院 [小児総]
 - ・重症及び難治性のアレルギー疾患に対し、多職種が連携して専門性の高い医療を提供するとともに、都民への普及啓発を実施
 - アレルギー科新入院患者数 1,200人 (参考：令和5年度 1,100人)
 - アレルギー講習会開催数 5回 (参考：令和5年度 5回)
 - 東京都アレルギー疾患治療専門研修：1回
 - 東京都アレルギー疾患医療連携研修：1回

- 生体腎移植件数 (目標) 12件 (実績) 8件 (達成度) 66.7%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
大久保病院	12件	8件	66.7%	13件

- 全身麻酔手術件数 (目標) 31,380件 (実績) 34,607件 (達成度) 110.3%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	1,850件	2,167件	117.1%	1,914件
大久保病院	1,181件	1,089件	92.2%	1,080件
大塚病院	2,325件	2,712件	116.6%	2,407件
駒込病院	3,415件	3,726件	109.1%	3,536件
豊島病院	2,000件	1,704件	85.2%	1,576件
荏原病院	1,650件	1,670件	101.2%	1,590件
墨東病院	4,000件	4,894件	122.4%	4,555件
多摩総合医療センター	5,500件	6,416件	116.7%	5,758件
多摩北部医療センター	1,594件	1,541件	96.7%	1,220件
東部地域病院	1,798件	1,930件	107.3%	1,733件
多摩南部地域病院	1,350件	1,508件	111.7%	1,335件
神経病院	317件	362件	114.2%	371件
小児総合医療センター	4,400件	4,888件	111.1%	4,600件
計	31,380件	34,607件	110.3%	31,675件

- ロボット支援下手術件数 (再掲；P3「がん医療」参照) (目標) 1,333件 (実績) 1,673件 (達成度) 125.5%

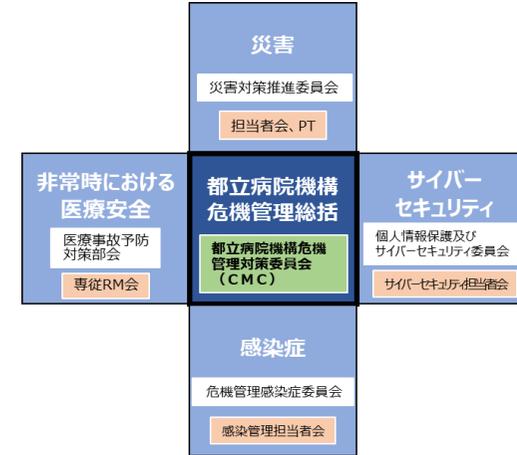
評価項目13 災害や公衆衛生上の緊急事態への率先した対応

自己評価
B

都外で発生した災害や、新型コロナウイルス感染症等に着実に対応

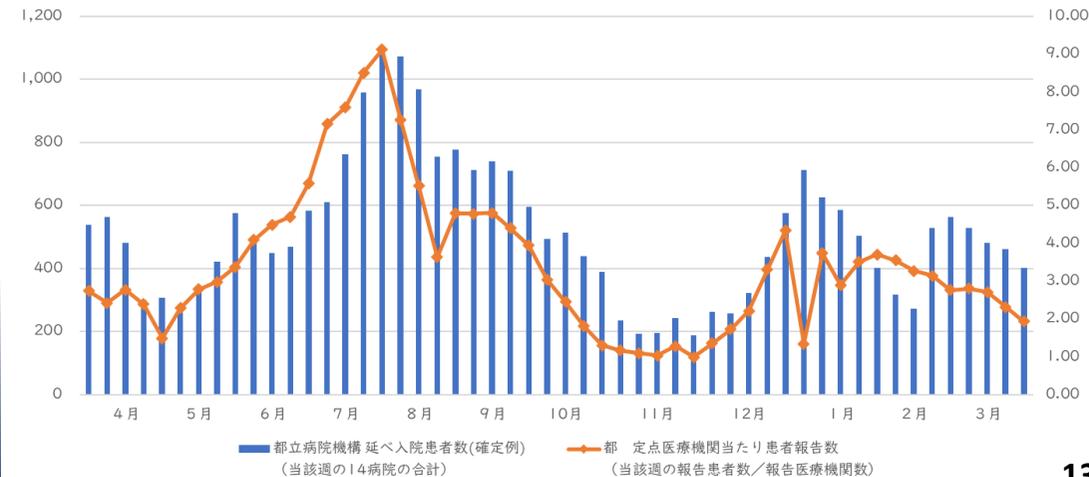
◆災害等有事への対応

- 能登半島地震・奥能登豪雨に関して、金沢大学附属病院小児科と連携し、令和6年11月から令和7年3月まで小児科医師を17名を派遣し、珠洲市総合病院及び市立輪島病院における業務に従事 [小児総]
- 都立病院に対する爆破予告事案に対し、危機管理対策委員会の運用手順に則り対応。グループウェア上で対応方針及びその具体策を各病院へ迅速に周知するとともに、本部・病院間で情報を共有。事案対応後はWeb会議を開催し、振り返りを実施



◆公衆衛生上の対応

- コロナ5類移行後も、コロナ患者を着実に受け入れ
令和6年度延べ入院患者数 26,680人 (参考：令和5年度 44,842人)



地域の医療機関等との連携を推進するとともに、地域ニーズに応じた取組を通じて、地域包括ケアシステムの構築に貢献

◆患者の紹介、逆紹介の推進

- 紹介率 (目標) 79.0% (実績) 77.9% (達成度) 98.7%
- 返送・逆紹介率 (目標) 76.0% (実績) 87.4% (達成度) 115.1%

病院名	紹介率				返送・逆紹介率			
	令和6年度			令和5年度 実績	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度		目標	実績	達成度	
広尾病院	65.0%	63.8%	98.1%	54.4%	75.0%	82.8%	110.5%	75.1%
大久保病院	74.8%	77.1%	103.1%	75.5%	87.8%	88.6%	101.0%	89.1%
大塚病院	76.7%	77.4%	100.9%	77.4%	63.1%	57.6%	91.3%	53.8%
駒込病院	80.0%	70.5%	88.2%	81.0%	65.0%	67.2%	103.3%	73.8%
豊島病院	75.0%	73.9%	98.6%	76.7%	85.0%	83.2%	97.9%	87.6%
荏原病院	77.0%	81.7%	106.1%	77.3%	87.6%	88.8%	101.3%	84.6%
墨東病院	90.0%	78.9%	87.6%	73.1%	64.5%	93.6%	145.1%	83.5%
多摩総合医療センター	97.5%	81.0%	83.1%	79.4%	103.5%	120.9%	116.8%	121.2%
多摩北部医療センター	82.4%	88.1%	106.9%	82.6%	86.6%	97.2%	112.2%	88.9%
東部地域病院	94.4%	97.5%	103.2%	94.9%	93.7%	103.6%	110.6%	100.6%
多摩南部地域病院	88.3%	95.7%	108.4%	92.5%	98.3%	108.8%	110.7%	99.5%
神経病院	38.5%	40.9%	106.2%	32.4%	-	-	-	-
小児総合医療センター	80.0%	69.5%	86.9%	77.8%	55.0%	52.1%	94.7%	56.7%
松沢病院	61.0%	38.1%	62.5%	53.1%	67.9%	57.9%	85.3%	73.0%
計	79.0%	77.9%	98.7%	77.7%	76.0%	87.4%	115.1%	85.9%

●各病院の取組

- ・ 令和7年3月31日付で地域医療支援病院の承認を受けた。[広尾]
- ・ 連携活動サポートツールを活用し、地域との連携を強化[墨東]
- ・ 逆紹介センターにおいて逆紹介を推進[多摩総]
逆紹介件数 682件(参考:令和5年度487件)
上位の診療科:消化器内科127件、精神神経科95件、循環器内科78件
- ・ 地域医療支援病院の申請に向け、全診療科において状態が安定した患者の逆紹介を積極的に推進[小児総]

◆連携医アンケートの実施

- 都立病院に対する地域の医療ニーズを把握するため、全14病院において連携医療機関へアンケート調査を実施(配布数10,112枚、有効回答数3,161枚、回収率31.8%、共通設問13問)

◆地域の関係機関との連携強化

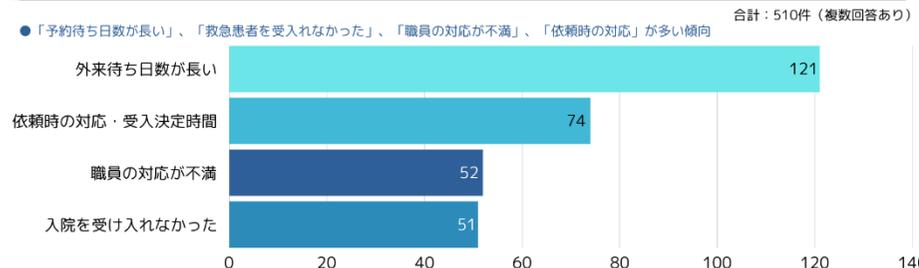
- 訪問看護同行支援件数 (目標) 383件 (実績) 651件 (達成度) 170.0%

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
大久保病院	20件	29件	145.0%	5件
荏原病院	10件	4件	40.0%	2件
墨東病院	20件	30件	150.0%	35件
多摩総合医療センター	24件	30件	125.0%	29件
多摩北部医療センター	24件	16件	66.7%	19件
東部地域病院	6件	0件	0.0%	4件
多摩南部地域病院	15件	37件	246.7%	28件
神経病院	30件	26件	86.7%	38件
小児総合医療センター	70件	58件	82.9%	69件
松沢病院	164件	421件	256.7%	292件
計	383件	651件	170.0%	521件

問1 患者さんをご紹介又は受診受入のご依頼をいただいた際の、当院の対応に満足していますか?

病院名	割合					計	満足 + やや満足	やや不満 + 不満
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満			
合計	52.7%	19.3%	19.1%	6.5%	2.4%	100.0%	72.0%	8.9%

問2 問1で「やや不満」、「不満」と回答した理由を教えてください。(複数回答可)



都立病院が有する知見を活用し、健康増進や疾病予防に関する普及啓発を推進

◆健康増進及び疾病予防に向けた普及啓発

- 医療情報室において病気や治療、支援に関する冊子を27種配架しているほか、文京区等の小・中学校や企業を対象にがん教育を実施（小・中学校17校、企業1社）〔駒込〕
- 糖尿病や認知症、睡眠等、様々なテーマで市民公開講座を7回開催し、延べ261名が参加。開催後は録画映像を公開することでより多くの人を受講できるよう工夫〔多摩北〕
- 都立病院の医師等が有する知見を広く周知するため、「都立病院コメンテーターリスト」を作成し、ホームページ上で公開
- 各病院の医師や看護師、コメディカルの協力の下、医療・健康に関するコラム記事を29本制作し、ホームページやSNS等で発信するとともに、都民向け広報紙「都立病院発！ヘルサポ通信」を発刊する等、都民の健康増進に貢献

◆Tokyoヘルスケアサポーター養成講座

- Tokyoヘルスケアサポーター養成講座を2回開催
 - 9月：認知症に関する講演会（後援：東京都、東京都医師会）
認知症の予防や診療に関する講演の他、認知症予防の運動などのパネル展示等を実施（申込者数472名、参加者数159名（抽選））
 - 2月：フレイル予防に関する講演会
（後援：東京都、東京都医師会、東京都歯科医師会）
東京都医師会に講師を依頼し、メンタル・身体両面のフレイル予防等の講演を行ったほか、東京都歯科医師会からの資料提供によるオーラルフレイルに関するパネル展示を実施（申込者数350名、参加者数209名（抽選））
- 都住宅政策本部・東京都住宅供給公社（JKK東京）との包括連携協定に基づき、都営住宅及びJKK住宅の居住者等を対象としたイベントを2回開催
 - 6月：多摩市愛宕の都営住宅、JKK住宅、近隣地域の住民を対象に認知症に関するイベントを開催（参加者数40名）
講師：認知症看護認定看護師、作業療法士〔多摩南〕
 - 11月：東村山市萩山町3丁目の都営住宅、JKK住宅、近隣地域の住民を対象に認知症に関するイベントを開催（参加者数23名）
講師：管理栄養士、理学療法士、認知症看護認定看護師〔多摩北〕

チーム医療の提供や患者の意思決定支援、患者サービスの向上など、患者中心の医療を推進

◆ 患者中心の医療の推進

● 多職種チーム

- 診療看護師を中心にPICCチームを新設し、タスクシフトによる医師の負担軽減に加え、チーム医療により医療の質を向上 [広尾]
- 緩和ケアチームの取組を充実させ、他チーム等のカンファレンスへの参加や、心理部門との連携強化などを推進した結果、新規の介入依頼件数は昨年度の62件から106件へ1.7倍増となった。 [小児総]
- 抗菌薬適正使用支援チームでは、外来における抗菌薬の適正使用に取り組み、アクセス抗菌薬使用比率で86%を達成。都保健医療局長賞を受賞 [小児総]

● 患者の意思決定支援

- 看護師長3名を入院時重症患者対応メディエーター研修に派遣するとともに、ACPIに関する学習会を開催、ACPマニュアルを作成 [広尾]
- 「適切な意志決定支援に関する指針」を策定。これを踏まえ、診療マニュアルを改訂し、「状態悪化時のテンプレート」も作成 [多摩北]
- 緩和ケアサポートチームを中心に、新生児科・集中治療科と共同して、「DNARに関わる合意形成における指針」を [小児総]
- 「患者の意思決定支援に関する指針」を策定。これを基に、患者本人にとっての最善を実現できるよう、院内多職種と患者関係者の医療・ケアチームで連携し、包括的に支援。倫理面で困難な事例は、外部有識者を交えた臨床倫理カンファレンスを開催（令和6年度臨床倫理カンファレンス開催回数：10回） [松沢]

● 患者ニーズに応じた医療等の提供

- 患者ニーズを踏まえ個室を増室する等、患者の療養環境を改善
- 自主料金を設定し、患者ニーズに応じた医療等を提供
 - ✓ 内視鏡下手術用支援機器を用いた鼠経ヘルニア手術（令和6年4月）
 - ✓ 遺伝学的検査、遺伝カウンセリング検査（令和6年4月）
 - ✓ 皮膚良性腫瘍に対する炭酸ガスレーザー治療（令和6年6月）
 - ✓ 乳房アートメイク（令和6年6月）
 - ✓ 付添家族に対する食事提供にかかる料金（令和6年9月）
 - ✓ 家族・遺族カウンセリング（令和6年10月）
 - ✓ プレコンセプションケア（令和6年12月） ※（）内は開始年月

◆ 患者満足度

● 患者満足度調査

- 入院調査では14病院中9病院が、外来調査では13病院中12病院が目標を達成
目標未達病院についても、全ての病院で目標達成度は90%以上であった

病院名	入院				外来			
	令和6年度			令和5年度 実績	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度		目標	実績	達成度	
広尾病院	87.0%	94.3%	108.4%	86.1%	85.0%	87.9%	103.4%	81.6%
大久保病院	89.0%	86.8%	97.5%	88.7%	80.0%	81.9%	102.4%	73.8%
大塚病院	85.3%	95.6%	112.1%	84.9%	80.3%	91.3%	113.7%	79.1%
駒込病院	95.8%	95.8%	100.0%	91.3%	86.9%	93.9%	108.1%	85.8%
豊島病院	92.1%	97.3%	105.6%	92.1%	81.8%	92.6%	113.2%	81.8%
荏原病院	90.0%	93.9%	104.3%	86.6%	90.0%	91.9%	102.1%	86.4%
墨東病院	86.7%	90.2%	104.0%	81.6%	73.5%	85.1%	115.8%	65.5%
多摩総合医療センター	91.9%	94.9%	103.3%	87.6%	83.6%	89.3%	106.8%	79.3%
多摩北部医療センター	89.6%	89.1%	99.4%	89.6%	78.1%	79.6%	101.9%	78.1%
東部地域病院	93.0%	92.8%	99.8%	92.9%	86.3%	90.3%	104.6%	85.5%
多摩南部地域病院	94.2%	89.1%	94.6%	94.2%	81.9%	80.5%	98.3%	81.9%
神経病院	87.4%	85.7%	98.1%	85.1%	-	-	-	-
小児総合医療センター	86.0%	90.6%	105.3%	90.7%	86.0%	95.3%	110.8%	83.6%
松沢病院	57.5%	70.9%	123.3%	57.5%	83.7%	88.3%	105.5%	79.0%

● 患者意見を踏まえた改善例

- 接遇の改善を図るため、職員向け接遇研修を行うとともに、委託事業者に対しても接遇改善を要請 [広尾]
- 患者の要望を踏まえ、患者用Wi-Fiの設置、シャワー室への時計の配置を行ったほか、妊産婦向け特別メニューについて人気メニューが入院期間中に1度は提供されるよう変更 [豊島]
- 待ち時間対策として、臨時の採血ブースを増設するとともに、待合室に図書コーナーを設置。駐車場混雑時の苦情に対して、掲示物を活用する等、誘導対応を強化 [多摩北]
- 接遇能力向上を目的として、医師や看護師、薬剤師、栄養士等多職種が参加する模擬患者演習を実施 [東部]

● 患者視点の第三者評価の受審

- 患者サービスに精通した団体が実施する第三者評価を受審。病院機能評価とは異なる患者視点ならではの評価を受け、その結果を改善につなげた。 [豊島]
- 例：総合相談窓口付近では、総合相談窓口の声だけでなく、会計呼出をするスタッフの声や、エスカレーターのアナウンスが聞こえてきて、騒々しく落ち着かない
⇒ 会計呼出の声掛けは必要時のみ行うこととし、エスカレーターのアナウンスを停止

質の高い医療の提供

評価項目17

クオリティ・インディケーター (QI)や医療安全の取組を着実に実施し、質の高い医療を提供

◆クオリティ・インディケーター (QI)

● 機構全体の取組

- ・ 年度計画に14病院共通のQI取組指標を新たに設定し、四半期ごとに実績・原因分析・今後の取組を確認することで、PDCAサイクルによる運用を実践
- ・ 臨床評価指標 (QI) 講演会を開催してQIの意義を浸透させるとともに、QI推進連絡会を新たに立ち上げ、病院間の情報共有や進捗管理を実施することで、各病院の体制構築や取組の活性化を図った。

● 各病院独自の取組例

- ・ 日本病院会のQIプロジェクトに5病院が参画。PDCAサイクルの過程で他施設比較を行いながら、改善活動を実施 [大久保、豊島、多摩総、多摩北、松沢]
- ・ 病院機能評価機構の「医療の質可視化プロジェクト」及び「医療安全文化調査」に参加するとともに、院内にTQM推進委員会を設置し、個別指標の進捗確認や、成果の出ている取組状況のプレゼンを実施 [多摩北]
- ・ QI委員会を設置し、全診療科・部門でQI指標を設定するとともに、QIの普及、取組定着を図るため「QI通信」を発行 [東部]
- ・ 全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」、及び日本医療機能評価機構の「医療の質向上プロジェクト」に参画 [松沢]

● インシデント・アクシデント全報告中医師による報告の占める割合

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
広尾病院	10.0%	5.3%	53.0%	3.2%
大久保病院	4.5%	8.9%	197.8%	2.8%
大塚病院	10.0%	6.7%	67.0%	6.1%
駒込病院	7.0%	6.7%	95.7%	5.5%
豊島病院	6.0%	6.0%	100.0%	4.2%
荏原病院	6.0%	4.2%	70.0%	2.9%
墨東病院	8.0%	6.8%	85.0%	6.8%
多摩総合医療センター	10.0%	6.6%	66.0%	8.1%
多摩北部医療センター	8.0%	3.2%	40.0%	4.5%
東部地域病院	5.0%	5.1%	102.0%	3.7%
多摩南部地域病院	5.0%	2.4%	48.0%	3.1%
神経病院	7.6%	8.0%	105.3%	6.4%
小児総合医療センター	10.5%	9.3%	88.6%	9.9%
松沢病院	7.0%	3.7%	52.9%	1.9%

◆医療安全の取組

- 全病院共通のQI指標として、IAレポートにおける医師の報告率を設定し、医師からの報告率向上を図り、医療安全の一層の推進を図った
- 医療安全に係る管理体制等の取組状況について監査を受けるため「医療安全監査委員会」を設置・運営しており、医療安全に関する取組が適切に行われていることを確認 [駒込]
- 他施設を対象にCVPPP (包括的暴力防止プログラム) に係るトレーナー養成研修を実施 (4日間の研修を計3回) し、全国から43施設・47名が参加 [松沢]
- CVPPPインストラクターを地域の関係機関に講師として派遣し、地域の医療安全意識向上に貢献 (1施設に対して講師3名を2回派遣) [松沢]
- 各病院の医療安全担当者を対象にリスクマネジメント研修を実施し、医療安全対策を担う人材を育成
テーマ: 「なぜ、心理的安全性のない組織は危険なのか?」、参加者数147名

◆薬剤耐性 (AMR)対策の取組

- 薬剤科を中心とした抗菌薬適正使用支援チームを設置し、抗菌薬の適正使用について各診療科に助言・指導を行うなど、抗菌薬適正使用に関する取組を実施
- ・ AMR対策として、地域薬剤師会及び大学薬学部と共同で親子体験会を開催 [多摩北]

<親子体験会概要>

薬剤耐性菌問題の理解を深めてもらうために自分自身の口腔内常在菌をグラム染色して、細菌と共存していることの体験、手洗い練習による感染対策の習得 等

	参加者数
第1回@明治薬科大学	子供18名、大人14名
第2回@武蔵野大学	子供17名、大人12名



研究推進センターにおいて各病院の臨床研究・治験を支援するとともに、データ利活用の基盤となるデータプラットフォームについて検討

◆臨床研究の推進

- 研究推進センターによる研究支援
令和6年度実績 64件（参考：令和5年度 56件）
（内訳）
 - ・ データセンター支援業務 28件（新規3件、継続25件）
臨床研究のデータを一元管理したほか、電子的症例報告書システムの作成や、被験者登録・割付をはじめとしたデータ運用や整合性確認、年次会議資料の作成などを実施
 - ・ 事務局支援 22件（参考：令和5年度実績 19件）
実施計画書の作成段階から関与し、試験薬概要書や同意説明文書、各種手順書の作成補助とタイムマネジメントを実施したほか、関係者（試験薬提供者、関与企業、研究共同機関等）との連絡調整や各種資料作成等を実施
 - ・ モニタリング 14件（参考：令和5年度実績 12件）
データセンターで管理しているデータの登録件数や問い合わせ件数等について、チェックリストに基づき倫理的問題の発生有無を定期的に確認
- 都立病院の医師等が著者として関与した延べ731件の論文が、令和6年度にPubMed※に掲載され、この内の241件は筆頭著者として関与
※ 米国国立医学図書館内の国立生物科学情報センターが作成しているデータベース
- 4件の臨床研究で新たに外部資金を調達（AMED 3件、企業共同研究1件）
（参考：令和5年度実績 3件（AMED 1件、企業共同研究2件）
- 治験・受託研究実施数（目標）265件（実績）294件（達成度）**110.9%**

病院名	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成度	
駒込病院	200件	225件	112.5%	222件
小児総合医療センター	65件	69件	106.2%	60件
計	265件	294件	110.9%	282件

◆データプラットフォームの検討

- 都立病院の医療情報をはじめとするデータ利活用の基盤となるデータプラットフォームについて検討開始
- 先行する他の医療機関に対してヒアリングを実施し、データプラットフォームに求められる要件を整理するとともに、運営体制の要件についても検討

評価項目19 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 (1/4)

将来にわたって持続可能な運営基盤を構築するため、人材の確保・育成や働きやすい職場づくりを進めるとともに、収益の確保及び徹底した支出削減の取組など自律的運営に向けた取組を強力に推進

◆ 人材の確保

● 柔軟な職員採用

- ・ 病院選考による法人職員（医師・看護師）の採用や、特別選考による専門性の高い職員（ICT職など）等の採用を実施
[令和6年度採用例] ICT職7名、建築職3名、診療看護師2名 等
- ・ 病院選考対象職種をコメディカル・事務へ試行的に拡大し、10職種・23名を採用（令和6年度入職者ベース）
⇒令和7年度は本則化し、引き続き柔軟かつ機動的に人材を確保

● 採用制度の見直し（令和7年度採用選考から適用）

- ・ 選考の早期化、受験生の単願志向を踏まえ、新卒看護の初回選考を5月下旬から1か月前倒し
- ・ より幅広い層から多様な人材を求めるため、中途採用における年齢上限の見直しを行い、コメディカル及び事務の中途採用で45歳を上限としていた受験資格を定年年齢まで引上げ
- ・ 効果的な選考に向け、適性検査の対象を看護・事務からコメディカルにも拡大。検査結果は入職後の人材育成等にも活用

● 新卒看護離職率、職員満足度 ※やりがいにに関する質問に対する肯定的な回答の割合

	令和6年度			令和5年度実績
	目標	実績	達成状況	
新卒看護離職率	9%以内	9.6%	0.6pt未達	8.8%
職員満足度※	70%以上	69.8%	0.2pt未達	68.3%

● 機構独自の給与改定の実施

- ・ 賞与制度について、チーム医療を重視する病院現場全体のモチベーションを高めるため、従来の拠出方式を見直し、職員の6割を加算対象とする新制度の運用を開始
- ・ 賞与制度の見直しと合わせ、診療報酬で新たに措置されたベースアップ評価料の枠組みを踏まえ、例月給+2.3%（令和6年4月：+0.9%、令和7年1月：+1.4%）、賞与月数を据え置きとする、都人事委員会勧告によらない機構独自の給与改定を実施

◆ 人材の育成

● 人材育成ビジョン「自ら育つ、みんなで育てる」の推進

- ・ 役職研修等の機会を捉え、ビジョンの理念・取組を職員に周知
- ・ 「職員ハンドブック」の更新、「管理職ハンドブック」の作成
- ・ チューター制度の対象職種を拡大（事務職+コメディカル）
- ・ 若手職員（本部+病院）の企画・運営による勉強会を実施（計6回）

● 職員の専門性の向上

- ・ 幹部医師を対象に、外部研修への派遣（副院長6名、医長10名）、マネジメントカ養成講座（副院長2名、部長10名）を実施
- ・ 東京医師アカデミーで専攻医等を育成（令和7年4月1日現在、381名在籍）令和6年度修了者119名のうち16%は、都内の民間病院等に就職
- ・ 東京看護アカデミーにおいて、看護師の都立病院間派遣研修（マネジメント派遣17名、ジェネラリスト派遣研修87名）、地域医療推進機構（JCHO）派遣研修（管理職6名）を実施
- ・ 各職種に必要な資格について、取得・更新のための支援を実施（コメディカル311名、看護117名、事務20名）

◆ 働きやすい職場づくり

● 医師の働き方改革

- ・ 医師の働き方改革に関する新制度に基づき、勤務時間管理や健康確保措置（勤務間インターバル、代償休息等）を実施
- ・ 医師1人当たりの超過勤務実績は、令和5年度比6.1%減（法人職員の実績を集計）

【参考】医師1人当たりの超過勤務実績（時間/年）

令和6年度	令和5年度	
310.1	330.2	▲6.1%

● 職員のデジタル活用に向けた環境整備

- ・ 各職員がスマートフォンからグループウェアにアクセスできる環境を実現したほか、機構における生成AIガイドラインを策定

評価項目19 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 (2/4)

将来にわたって持続可能な運営基盤を構築するため、人材の確保・育成や働きやすい職場づくりを進めるとともに、収益の確保及び徹底した支出削減の取組など自律的運営に向けた取組を強力に推進

◆ 法人運営の基盤構築に向けたプロジェクト

- 「新しい都立病院の未来をみんなで切り拓く」ことを共通認識とし、5つのプロジェクトにより、各現場と法人本部とが組織の垣根を超えた「横串の活動」を展開し、法人運営の基盤となる多くの具体的な取組につなげた。

人材育成・活用プロジェクト

- ◆ 職員一人ひとりを大切に、人材育成を推進
- ◆ 職場環境の改善等、誰もが働きやすい環境を実現
- ・「自ら育つ、みんなで育てる」を合言葉に、若手職員による勉強会を拡充したほか、職員ハンドブックを更新
- ・事務系管理職向けの業務マニュアル、管理職候補者の学習ツールとして「管理職ハンドブック」を新たに作成
- ・管理職選考の受験上限年齢引上げや対象職種拡大等、昇任選考を見直すとともに、看護職において複線型任用を先行実施

経営力強化プロジェクト

- ◆ 持続可能な病院運営のための、安定的な経営基盤を維持
- ◆ 独法化のメリットを活かした、機動的な病院運営を実現
- ・新規・上位の施設基準の取得や経営力強化WGによる算定漏れ防止対策等、収益確保の取組を実施
- ・医薬品の契約方法の工夫や診療材料の大学病院等との共同調達、放射線機器の一括保守契約、交渉権入札方式の実施等、費用削減を徹底
- ・経営勉強会（年6回）、病院幹部マネジメント研修（年2回）を開催

魅力発信プロジェクト

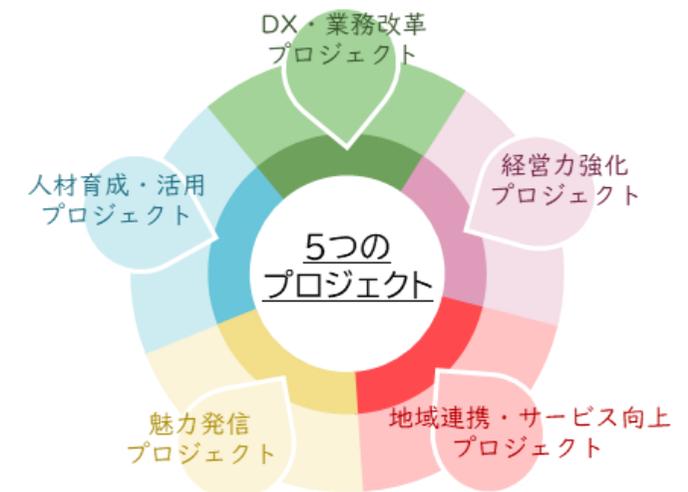
- ◆ 都立病院に対する良好なイメージは重要な経営資源の一つ
- ◆ 都立病院の魅力の発見とそれに基づく戦略的な広報を推進
- ・医療や健康に関するコラムのSNS上等での発信に加え、新たな広報紙「ヘルサポ通信」を発行する等、都立病院の有する知見を積極的に発信
- ・Tokyoヘルスケアサポーター養成講座や、都及びJKK東京とのイベント共催を通じ、普及啓発を推進
- ・広報強化月間を設定し、広報関連のコンテストや掲示物の相互点検、広報の取組事例の横展開を実施する等、職員の広報対応力・広報への意識を向上

地域連携・サービス向上プロジェクト

- ◆ 地域医療機関等との連携や地域貢献の取組を推進
- ◆ 特徴的な取組の共有・展開によりサービスアップに係る取組を強化
- ・地域ニーズを把握するために機構全体で連携医アンケートを実施、以降も隔年で実施する方針
- ・各病院がサービス向上取組計画を策定し、これに基づき患者サービスの向上を図るとともに、取組内容を全病院で共有
- ・各病院で患者視点による第三者評価を受審する方針を決定・周知、受審病院の結果に係る情報を共有
- ・カスタマー・ハラスメント（ペイシエント・ハラスメント）対策の検討を開始

DX・業務改革プロジェクト

- ◆ DXを活用した業務改善が必要との声を受け、令和5年度から業務改善プロジェクトを開始
- ◆ 職員の声を踏まえて業務の負担・手間を軽減し、働きやすくやりがいのある職場づくりを推進
- ・人事や給与、契約、医事など全病院共通の41業務についてマニュアルを整備し、標準化することで、業務負担を軽減、異動に伴う引継ぎ時間を短縮
- ・オンラインフォームを活用し、20種類以上の採用書類を電子化することで、情報管理を一元化
- ・スマートフォンの活用や看護職員情報管理アプリなど、DXが進んでいる病院や部署の取組を収集して横展開することで、機構全体で業務改革を推進



評価項目19 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 (3/4)

将来にわたって持続可能な運営基盤を構築するため、人材の確保・育成や働きやすい職場づくりを進めるとともに、収益の確保及び徹底した支出削減の取組など自律的な運営に向けた取組を強力に推進

◆ 収益の確保

● 「地域との連携強化」

- ・コロナ患者の受入れにより影響を受けた地域との連携を強化するため、積極的な医療機関訪問を実施

	令和5年度	令和6年度	増減
連携医訪問件数	1,418件	2,609件	+1,191件

● レセプト点検チームによる収益確保と算定漏れ防止に向けた活動

- ① DPCコーディングの点検
DPC対出来高請求金額比較で減収上位200症例を点検
- ② 指導料・医学管理料・加算等の点検
重点調査項目をリスト化し、効率的に幅広く点検
- ③ 施設基準の点検
届出項目と請求状況の突合、届出漏れの精査
- ④ 機能評価係数Ⅱの点検
救急補正係数を重点的に分析・点検

● 経営力強化WGによる収入確保対策

- ・スケールメリットを活かしたベンチマーク分析と具体的な改善策を共有
救急医療管理加算、難病患者等入院診療加算、無菌治療（室）管理加算、在宅患者緊急入院診療加算 等

● 新規・上位施設基準の取得

【主な新規基準取得】
感染対策向上加算、急性期看護補助体制加算 等

【主な上位基準取得】
医師事務作業補助体制加算、診療録管理体制加算 等

◆ 支出の削減

● 共同購入

- ・医薬品について、PFI病院を除く全ての病院で共同購入契約ごとの品目の組み合わせを工夫し、契約額を削減
- ・令和7年度から検査試薬の契約期間を変更（半年→1年）し、価格変動を抑制
- ・放射線機器等について、メーカー単位でまとめて本部一括保守委託契約仕様の見直し及び価格交渉により契約額削減
- ・ガスを本部で一括契約し、割引を適用
- ・事務用品やオンライン研修の共同購入

● 国立大学病院等との共同調達事業

- ・令和5年3月 国立大学病院長会議（NUHC）、地域医療機能推進機構（JCHO）と共同調達事業の基本合意締結
- ・令和5年11月 自治医科大学病院本院が参画

● DX関連業務の内製化

- ・令和6年度下期のDX関連作業を、DX推進センターにおいて内製化

作業名

がん登録システムサーバー構築

災害時診療情報閲覧環境構築（12病院分）

オフラインバックアップ環境構築（旧公社6病院分）

電子カルテビューアサーバー調達・構築、

電子カルテ端末140台キッティング+設置作業（プリンター80台含む）

● 委託等契約内容の見直し

- ・コンサルティングを活用した業務委託費等の見直しを実施（多摩北）
- ・多摩メディカル・キャンパスのPFI事業が第二期に移行することに伴い、運營業務範囲を見直し
医薬品および診療材料の購入、光熱水費契約を直営化、委託業務内容の見直し（清掃・医療作業、検体検査、医事業務、洗濯） 等

評価項目19 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置（4/4）

将来にわたって持続可能な運営基盤を構築するため、人材の確保・育成や働きやすい職場づくりを進めるとともに、収益の確保及び徹底した支出削減の取組など自律的な運営に向けた取組を強力に推進

◆ 投資の抑制

● 維持管理工事、医療機器更新等

- 医療機器の購入や施設の修繕等について、本部での一元的な資金管理や予算額の調整により投資額を抑制
- 1億円以上の医療機器の購入や施設の修繕等は、経営戦略推進会議に付議し、投資の可否を決定

維持管理工事（既存改修等）

- 病院において必要性が高いと判断された工事についても、法人本部で一件別で判定
- 法令順守のために必要な工事や、患者等の安全に重大な影響があるもの以外、原則として先送り

医療機器更新等

- 病院において更新の優先順位を検討後、高額機器については法人本部でも一件別で判定
- 病院で抑制した要求額から、更に法人本部で20%シーリングを実施

DX推進事業

- DX推進計画において定めていたWi-Fi整備やスマートフォン導入に関し、優先順位を決めて整備

● 電子カルテシステム更新時のベンダー統一及び仕様標準化

- パッケージ標準仕様・14病院共通仕様・統一ベンダーでの導入、ネットワーク機器等の調達方法見直し等により費用抑制

◆ 柔軟な病床運用と適正な人員配置

● 患者数に応じた柔軟な病床運用

- コロナ禍後の受療動向の変化等により病床稼働率が低迷する中、医療資源の有効活用の観点から患者数に応じた柔軟な病床運用を徹底
- 一般病床においては、85%以上の病床稼働率を目指し、運用

柔軟な病床運用を踏まえた上で、都立病院の役割や機能、今後の医療需要等も見据え、人員配置のあり方について検討

<検討の方向性>

- ✓ 各病院の収支目標を達成可能な人員配置
- ✓ 今後も都立病院の役割を果たすことのできる人員配置
- ✓ 都立病院と同規模の他団体等の状況も考慮（専門病院は除く）

病院間異動や採用等により、適正な人員配置を実現

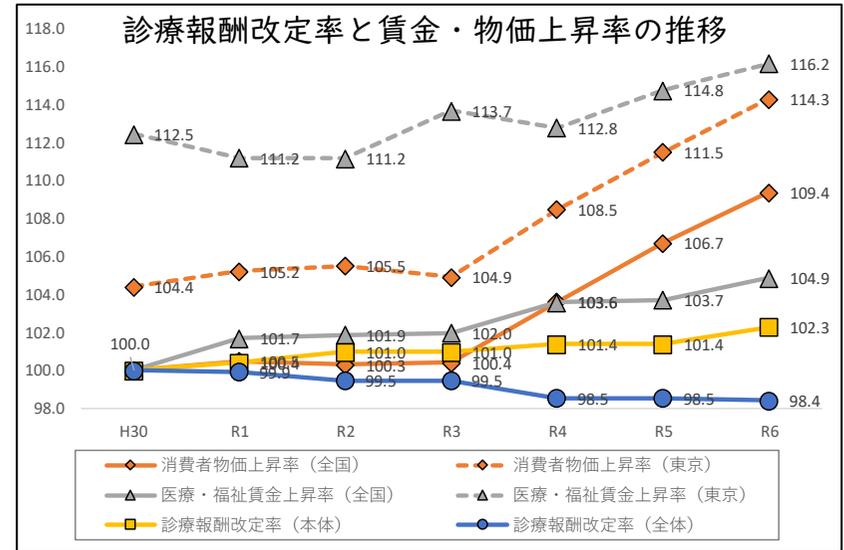
- 退職動向や年齢構成、育成の観点を踏まえて順次実施していくため、一定期間が必要
- この間、一時的に余剰となる人員は、例えば高稼働率であるなど、繁忙度の高い病院への異動等で有効活用

厳しい状況下でも、断らない救急の徹底や地域との連携強化等に加え、徹底した収益確保及び支出削減により、医業損益を改善

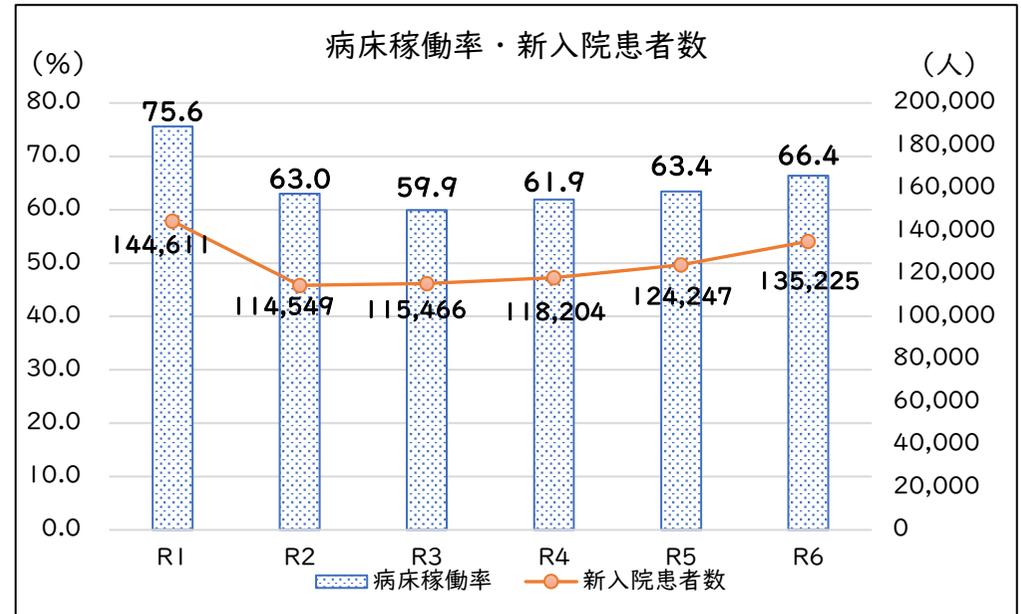
◆ 令和6年度決算の概要

- 近年、物価高騰や賃金上昇が急激に進む一方で、診療報酬はプラス改定が続いているものの微増にとどまっており、病院経営を取り巻く環境は全国的に厳しさを増している。
- このような中でも「断らない救急の徹底」や「地域との連携強化」等により確かな実績を積み上げ、新入院患者数は全ての病院で昨年度実績を上回り、前年度比10,978人増（約8.8%増）の135,225人となった
- この結果、在院日数の短縮化による影響もあったが、病床稼働率は前年度比3.0ポイント増加し、66.4%に改善
- さらに、病院と法人本部とが一丸となって進めた収益確保の取組により診療単価も上昇し、総合病院の入院診療単価は8万円を超えた
- これら収益面での改善に加え、徹底した費用削減を強力に推進した結果、厳しい環境下でも医業損益を前年度比で44億円改善
- また、資金運用を開始したほか、緊急的な対応として資金を本部一元管理に切り替えるなど、効率的な資金管理・運用に取り組んだ
- しかしながら、コロナ補助金収益の減少や固定資産除却損等の発生といった医業外のマイナス要因が大きく、当期損失は前年度比約56億円悪化となる239億円を計上
- 目標及び実績は下表のとおり

	令和6年度			令和5年度 実績
	目標	実績	達成状況	
病床稼働率	83.0%	66.4%	達成度 80.0 %	63.4%
平均在院日数	12.3日	11.3日	達成度 108.8 %	12.5日
医業収支比率	76.9%	72.3%	△4.6ポイント	70.2%
経常収支比率	96.8%	91.3%	△5.5ポイント	92.6%



出典) 賃金上昇率：毎月勤労統計調査結果（厚労省、東京都）より作成
物価上昇率：内閣府「中長期の経済財政に関する試算（令和7年1月試算）」より作成



DXの推進や施設整備など、法人運営における重要事項に着実に取り組んだ

◆ 病院運営におけるDXの推進

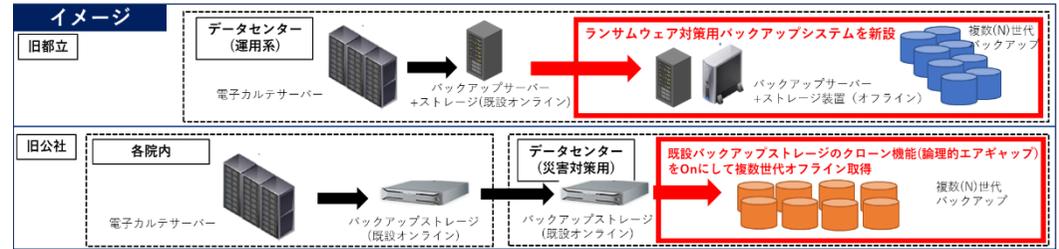
- 医療情報基幹システムの更新に向けた検討・準備
 - ・電子カルテシステムのカスタマイズを原則実施しない方針へ見直し
 - ・医療情報基幹システムの更新に向けた方針の整理
 - ・調達等の内製化によるコストダウンの実現
- デジタル基盤の整備
 - ・基幹Wi-Fi整備を完了 [大塚、豊島、墨東]、設計を実施 [荏原、多摩南、松沢]
 - ・モデル病院である多摩総合医療センターにおいて業務用スマートフォンを導入し、利用開始

◆ 施設・設備の整備

- 広尾病院
 - ・令和6年6月に特別目的会社とPFI事業契約を締結し、既存病院等の改修及び解体に係る設計を実施
 - ・地域の理解を得ながら事業を円滑に進めるため、住民向け説明会等を3回実施
- 陽子線治療施設 [駒込]
 - ・都立病院粒子線治療施設整備計画（東京都保健医療局策定）に基づき、陽子線治療施設の整備を推進
 - ・入札手続きを進めるとともに、施設整備・運営に係る検討会を2回開催し、陽子線治療施設の運用開始に向けた課題について検討
- 多摩メディカル・キャンパス
 - ・バスロータリーを新設し、令和6年8月より共用を開始
 - ・多摩総合医療センターの東館が完成。令和7年度からの診療開始に向け、準備を進めた。（令和7年4月から運用開始）
- 多摩北部医療センター
 - ・令和7年3月末に「多摩北部医療センター整備基本計画」を策定・公表
- 施設等総合管理計画
 - ・日々必要な維持管理や、施設整備等を行っていく上で総合的かつ計画的に管理していくための基本的な方針を取りまとめた「施設等総合管理計画」を策定
 - ・本計画を踏まえ、施設整備・維持管理等を進め、施設等の長寿命化を図る。

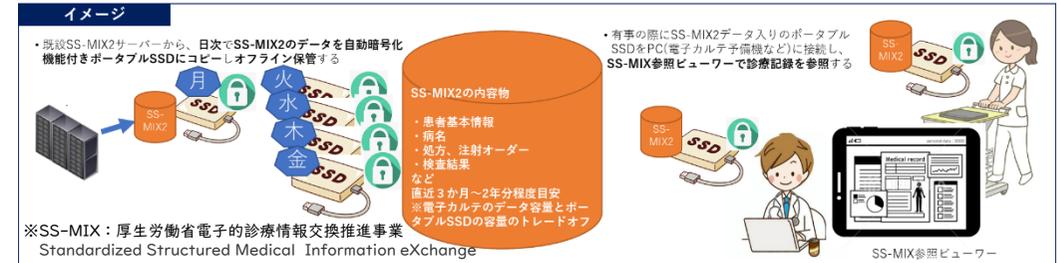
◆ サイバーセキュリティ対策

- オフラインバックアップ
 - ・サイバー攻撃を想定し、復旧に向けた早期対処及び信頼性のあるデータ保護のため、ネットワークから切り離れたオフラインバックアップ環境を構築（旧公社6病院で完了、旧都立8病院は令和7年度中に完了予定）



● 診療情報オフライン参照環境の構築

SS-MIX2のデータを活用し、電子カルテダウン時でも過去の診療情報を基に診療継続可能な環境を構築（2病院で完了、残り12病院へ順次展開）



● 情報セキュリティの徹底

	令和6年度			令和5年度実績
	目標	実績	達成度	
研修受講率	100%	100%	100%	100%

- ・個人情報安全管理・サイバーセキュリティ強化月間を設定し、全職員を対象としたeラーニングによる自己点検及び研修を実施（受講率100%）
- ・個人情報保護とサイバーセキュリティについて適正な運用に向け、2病院を対象に巡回点検を実施。日常業務に潜むリスクを洗い出し、業務フロー及び管理体制等を改善

令和6年度決算 損益計算書 (概要)

(単位：億円；税抜)

	令和6年度 決算	前年度比		令和6年度 決算	前年度比	
1 医業収益	1,779	+79	→	1 医業収益	1,779	+79
2 -) 医業費用	2,459	+35	→	2 入院収益	1,229	+104
3 医業利益(損失)	△ 680	+44		3 外来収益	503	+20
4 +) 負担金・交付金	523	△4		4 その他医業収益	46	△45
5 +) 補助金	14	△49		5 医業費用	2,459	+35
6 -) 一般管理費	24	+5	→	6 給与費	1,179	+24
7 ±) その他収支	△ 60	△25		7 材料費	314	+16
8 経常利益(損失)	△ 226	△38		8 光熱水費	37	+2
9 ±) 臨時損益	△ 13	△19		9 委託料 (PFI含む)	614	△8
10 当期利益(損失)	△ 239	△56		10 賃借料	30	+3
				11 減価償却費	223	△3
				12 研究研修費	15	+0
				13 その他	47	+1

参考 2

各病院等の主な経営指標

(単位：千円)

	経常収益			経常費用			経常利益			新入院患者数 (人)		病床稼働率 (%)		初診患者数 (人)		患者1人1日当たり 入院診療収益 (円)		1日平均 入院患者数 (人)		平均在院日数 (日)		1日平均 外来患者数 (人)		
	R6年度	R5年度	差引増減	R6年度	R5年度	差引増減	R6年度	R5年度	差引増減	対前年度 (人)	対前年度 (ポイント)	対前年度 (人)	対前年度 (円)	対前年度 (人)	対前年度 (日)	対前年度 (人)								
1 広尾病院	12,298,044	12,335,556	△ 37,512	16,278,910	15,791,444	487,466	△ 3,980,866	△ 3,455,888	△ 524,978	8,179	598	59.9	2.6	18,173	△ 470	83,515	2,368	242.1	10.6	9.9	△ 1.3	474.5	8.3	
2 大久保病院	7,321,992	7,872,293	△ 550,301	9,238,623	9,312,045	△ 73,422	△ 1,916,631	△ 1,439,752	△ 476,879	5,544	320	52.4	0.4	10,745	104	71,121	1,569	159.4	1.3	9.6	△ 0.6	309.8	△ 7.3	
3 大塚病院	13,212,621	12,314,194	898,427	14,612,253	14,512,420	99,833	△ 1,399,632	△ 2,198,226	798,594	9,600	1,340	69.2	10.5	21,722	△ 178	70,521	1,111	281.1	35.7	9.8	△ 1.0	628.5	△ 2.5	
4 駒込病院	37,778,423	36,413,438	1,364,985	39,939,394	37,979,619	1,959,775	△ 2,160,971	△ 1,566,181	△ 594,790	14,770	1,390	64.6	4.8	16,518	426	92,550	3,067	517.5	38.7	11.8	△ 1.3	1,043.0	2.6	
5 豊島病院	13,226,332	13,002,463	223,869	13,584,555	13,161,129	423,426	△ 358,223	△ 158,666	△ 199,557	9,110	480	63.2	1.3	20,908	864	71,869	3,563	259.7	5.4	9.5	△ 0.3	526.5	17.1	
6 荏原病院	10,154,159	10,529,613	△ 375,454	11,117,581	10,802,667	314,914	△ 963,422	△ 273,054	△ 690,368	6,968	524	45.4	0.3	20,236	833	63,889	2,055	206.8	1.6	9.9	△ 0.8	427.3	△ 4.8	
7 墨東病院	33,177,388	32,069,055	1,108,333	34,980,605	33,604,203	1,376,402	△ 1,803,217	△ 1,535,148	△ 268,069	17,536	1,774	75.8	4.4	41,262	9	94,568	4,247	549.9	30.1	10.5	△ 1.6	1,019.5	△ 5.7	
8 多摩総合医療センター	37,366,357	34,941,080	2,425,277	40,651,527	37,441,866	3,209,661	△ 3,285,170	△ 2,500,786	△ 784,384	20,569	1,431	83.2	7.5	35,923	1,602	88,381	4,987	628.6	56.0	10.2	△ 0.8	1,533.6	29.3	
9 多摩北部医療センター	11,270,319	10,393,893	876,426	12,327,143	11,638,598	688,545	△ 1,056,824	△ 1,244,705	187,881	8,808	819	75.0	7.6	16,209	△ 1,218	70,839	3,372	246.1	24.9	9.3	0.0	430.2	3.7	
10 東部地域病院	7,745,698	7,975,708	△ 230,010	9,278,609	9,485,207	△ 206,598	△ 1,532,911	△ 1,509,499	△ 23,412	7,057	6	56.0	1.5	16,635	△ 689	69,893	△ 1,655	167.9	4.3	7.7	0.2	346.6	△ 8.2	
11 多摩南部地域病院	8,521,644	8,175,224	346,420	9,803,929	9,328,199	475,730	△ 1,282,285	△ 1,152,975	△ 129,310	8,225	1,011	74.7	12.6	14,183	△ 872	66,973	△ 2,153	207.0	35.1	8.2	0.4	351.0	△ 3.4	
12 神経病院	8,407,321	8,234,011	173,310	8,835,234	8,395,046	440,188	△ 427,913	△ 161,035	△ 266,878	4,271	380	70.3	7.3	573	28	58,655	△ 1,676	208.1	21.5	17.0	△ 0.5	11.6	1.0	
13 小児総合医療センター	22,295,063	22,192,422	102,641	23,106,251	22,236,963	869,288	△ 811,188	△ 44,541	△ 766,647	11,254	854	66.6	0.8	33,851	△ 3,219	86,548	3,827	355.0	4.1	10.8	△ 1.5	699.1	△ 3.1	
14 松沢病院	13,112,317	13,828,051	△ 715,734	13,711,749	13,864,442	△ 152,693	△ 599,432	△ 36,391	△ 563,041	3,334	51	60.7	△ 8.9	6,233	268	25,586	1,428	512.8	△ 75.1	54.7	△ 10.3	415.8	△ 1.5	
15 がん検診センター	908,358	1,006,698	△ 98,340	1,040,727	1,108,081	△ 67,354	△ 132,369	△ 101,383	△ 30,986	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	236,796,036	231,283,699	5,512,337	258,507,090	248,661,929	9,845,161	△ 21,711,054	△ 17,378,230	△ 4,332,824	135,225	10,978	66.4	3.0	273,171	△ 2,512	74,371	3,664	4,542.0	194.2	-	-	8,217.0	25.4	

(注) 各計数は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計等に一致しないことがある。